

第1回 江戸街道プロジェクトアドバイザリー会議

議事次第

日 時：令和5年6月8日（木） 15：00～17：00

場 所：リクルートGINZA8ビル 11階 ホール

1．開 会

2．関東運輸局長挨拶

3．議 題

(1) 江戸街道プロジェクトアドバイザリー会議の設置について

(2) これまでの取組について

(3) 江戸街道プロジェクト推進ビジョン2023及び今後の展開について

(4) その他

4．閉 会

【会議資料】

- ・議事次第（本紙）
- ・第1回 江戸街道プロジェクトアドバイザリー会議 出席委員名簿
- ・第1回 江戸街道プロジェクトアドバイザリー会議 配席図
- ・(資料1-1) 江戸街道プロジェクトアドバイザリー会議の設置について
- ・(資料1-2) 江戸街道プロジェクトアドバイザリー会議要綱（案）
- ・(資料1-3) 顧問・委員名簿
- ・(資料2) これまでの取組について
- ・(資料3-1) 江戸街道プロジェクト推進ビジョン2023（概要）
- ・(資料3-2) 江戸街道プロジェクト推進ビジョン2023
- ・(資料3-3) 今後の展開について

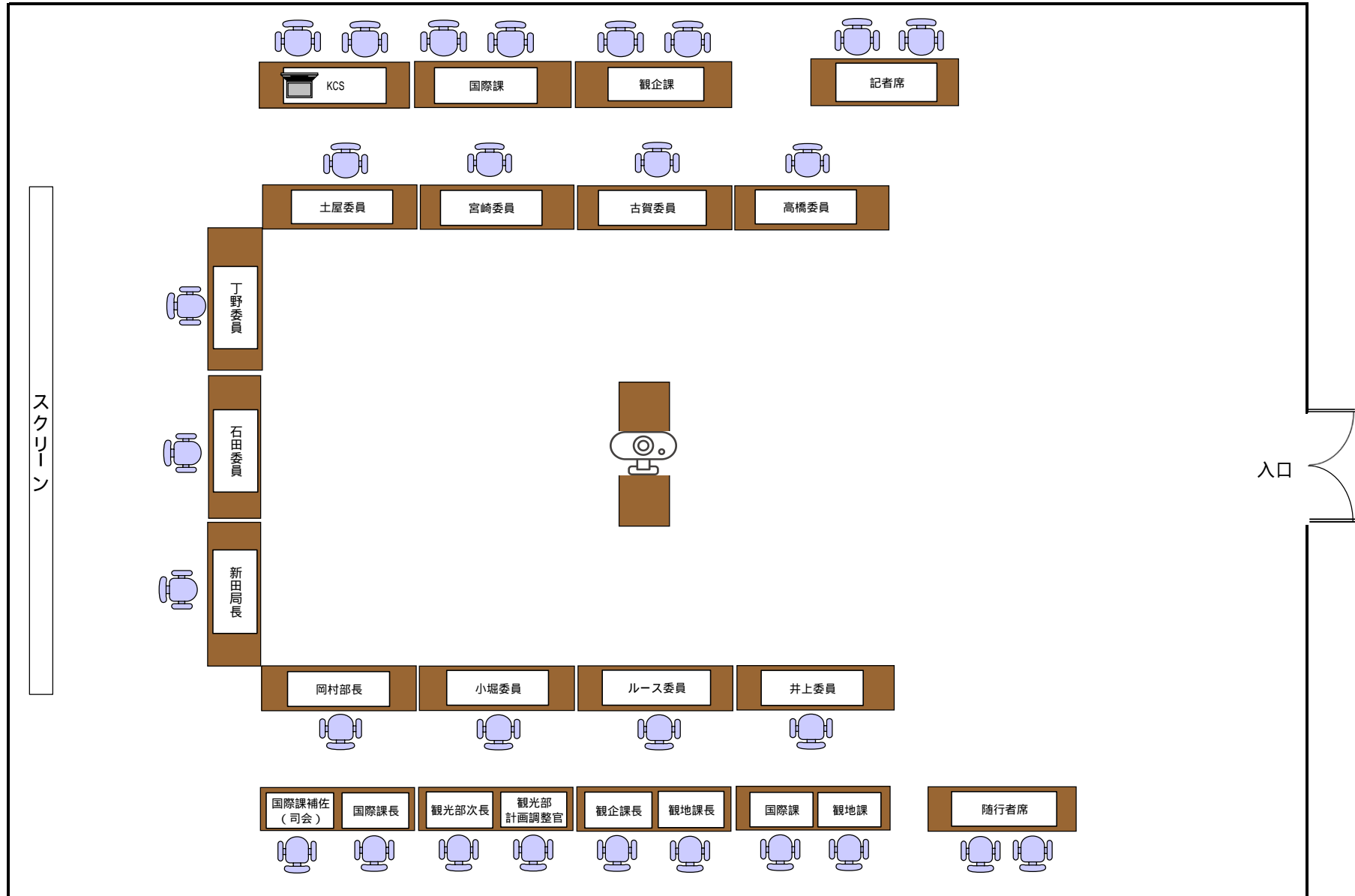
第1回 江戸街道プロジェクトアドバイザリー会議 出席委員名簿

(順不同・敬称略)

役職等	氏名	備考
筑波大学 名誉教授	石田 東生	
(公社)日本観光振興協会総合研究所 顧問	丁野 朗	
(株)リクルート地域創造部 部長	高橋 佑司	
(株)三菱総合研究所 主席研究員	宮崎 俊哉	
跡見学園女子大学 兼任講師	山崎 まゆみ	欠席
実業家	ルース・マリー・ジャーマン	
(特非)全国街道交流会議 専務理事	古賀 方子	
足立成和信用金庫 理事長	土屋 武司	
(一社)関東広域観光機構 専務理事	小堀 明夫	
(一社)日本ウォーキング協会 事業統括専務理事	井上 成美	
国土交通省 関東運輸局長	新田 慎二	

第1回 江戸街道プロジェクトアドバイザリー会議 配席図

リクルートGINZA 8ビル 11階 ホール



江戸街道プロジェクト有識者会議

(2022年5月設置)

- プロジェクトのコンセプトの明確化
- 課題の抽出、対策等の検討
- 推進ビジョン2023（実施方針）の作成

(順不同・敬称略)

委員	所属・役職
石田 東生（座長）	筑波大学 名誉教授
丁野 朗	公益社団法人 日本観光振興協会総合研究所 顧問
沢登 次彦	㈱リクルート ジャーナルリサーチセンター センター長
宮崎 俊哉	㈱三菱総合研究所 主席研究員
山崎 まゆみ	跡見学園女子大学 兼任講師
ルース・マリー・ジャーマン	実業家

	開催日	主な議題
第1回	令和4年5月20日	江戸街道プロジェクトの実施について
第2回	令和4年11月1日	江戸街道プロジェクトの取組状況について
第3回	令和5年3月28日	街道を活用した新たな観光振興策について

広域観光や街道に関する事業等に対して知識と経験のある方々を迎え
発展的組織変更

江戸街道プロジェクトアドバイザー会議

(2023年6月設置)

- 推進ビジョン2023に基づき、広域関東における街道観光推進施策を含む**プロジェクト全体**について**具体的に検討**

(順不同・敬称略)

委員	所属・役職
谷口 博昭（顧問）	一般財団法人 建設業技術者センター 理事長
石田 東生	筑波大学 名誉教授
丁野 朗	公益社団法人 日本観光振興協会総合研究所 顧問
高橋 佑司	㈱リクルート 地域創造部 部長
宮崎 俊哉	㈱三菱総合研究所 主席研究員
山崎 まゆみ	跡見学園女子大学 兼任講師
ルース・マリー・ジャーマン	実業家
古賀 方子	特定非営利活動法人 全国街道交流会議 専務理事
土屋 武司	足立成和信用金庫 理事長
小堀 明夫	一般社団法人 関東広域観光機構 専務理事
井上 成美	一般社団法人 日本ウォーキング協会 事業統括専務理事
新田 慎二	国土交通省関東運輸局長

令和5年6月8日 第1回アドバイザー会議を開催

「江戸街道プロジェクト」のねらい~コンテンツの再編集と統一ブランディング~

『江戸街道プロジェクト』とは、日本橋を起点とする五街道とその枝道として整備された水戸街道や成田街道等の脇往還を「江戸街道」として位置づけ、**街道沿いに豊富に点在している歴史的な観光資源、食や文化などの魅力的なコンテンツを再編集し、広域関東を「江戸街道」という統一テーマによってブランディング**することで効果的に国内外へ発信し誘客促進を図る取組。

3カ年計画により、地域での本格導入を目指す

2022 『調査』

- ・有識者会議
- ・シンポジウム
- ・調査事業

2023 『実証』

- ・プラットフォーム整備
- ・キャッチコピー/ロゴ開発
- ・実証事業

2024 『事業化』

- ・地域での企画、商品化
- ・自走へ

江戸街道プロジェクトアドバイザー会議要綱（案）

（名称）

第 1 条 本会議は、「江戸街道プロジェクトアドバイザー会議」（以下「アドバイザー会議」という。）と称する。

（目的）

第 2 条 「江戸街道プロジェクト推進ビジョン 2023」に基づき具体的にプロジェクトを推進し、広域関東における街道観光振興推進施策を含む江戸街道プロジェクト全体について検討するため、アドバイザー会議を設置する。

（組織）

第 3 条 アドバイザー会議は座長、委員及び顧問をもって構成する。

- 2 委員及び顧問は、別紙のとおりとする。
- 3 座長は、事務局の推薦及び委員の確認により定める。
- 4 座長は、アドバイザー会議の議長となり、議事の進行にあたる。
- 5 委員及び顧問の任期は、令和 6 年 3 月 31 日までとする。

（委員の代理出席）

第 4 条 座長は、委員が、やむを得ない事由によりアドバイザー会議に出席できない場合であつて、かつ、当該委員から申し出があつたときは、当該委員を代理する者の会議への出席を認めることができる。

（委員以外の者の出席）

第 5 条 座長が必要と認めるときは、委員以外の者に対し、アドバイザー会議に出席してその意見を述べ又は説明を行うことを求めることができる。

（資料の公開）

第 6 条 アドバイザー会議の資料は原則として公開とする。ただし、公開することが不適切なものについては座長の判断で非公開にできる。

（事務局）

第 7 条 アドバイザー会議の事務局は、関東運輸局観光部に置く。

（その他）

第 8 条 本要綱に定めるもののほか、アドバイザー会議の運営に関し必要な事項は、座長が定める。

（附則）

本要綱は、令和 5 年 6 月 日から施行する。

「江戸街道プロジェクトアドバイザー会議」
顧問・委員名簿（敬称略・順不同）

（顧問）

谷口 博昭 一般財団法人建設業技術者センター 理事長

（委員）

石田 東生 筑波大学 名誉教授

丁野 朗 公益社団法人日本観光振興協会総合研究所 顧問

高橋 佑司 株式会社リクルート地域創造部 部長

宮崎 俊哉 株式会社三菱総合研究所 主席研究員

山崎 まゆみ 跡見学園女子大学 兼任講師

ルース・マリー・ジャーマン 実業家

古賀 方子 特定非営利活動法人全国街道交流会議 専務理事

土屋 武司 足立成和信用金庫 理事長

小堀 明夫 一般社団法人関東広域観光機構 専務理事

井上 成美 一般社団法人日本ウォーキング協会 事業統括専務理事

新田 慎二 国土交通省 関東運輸局長

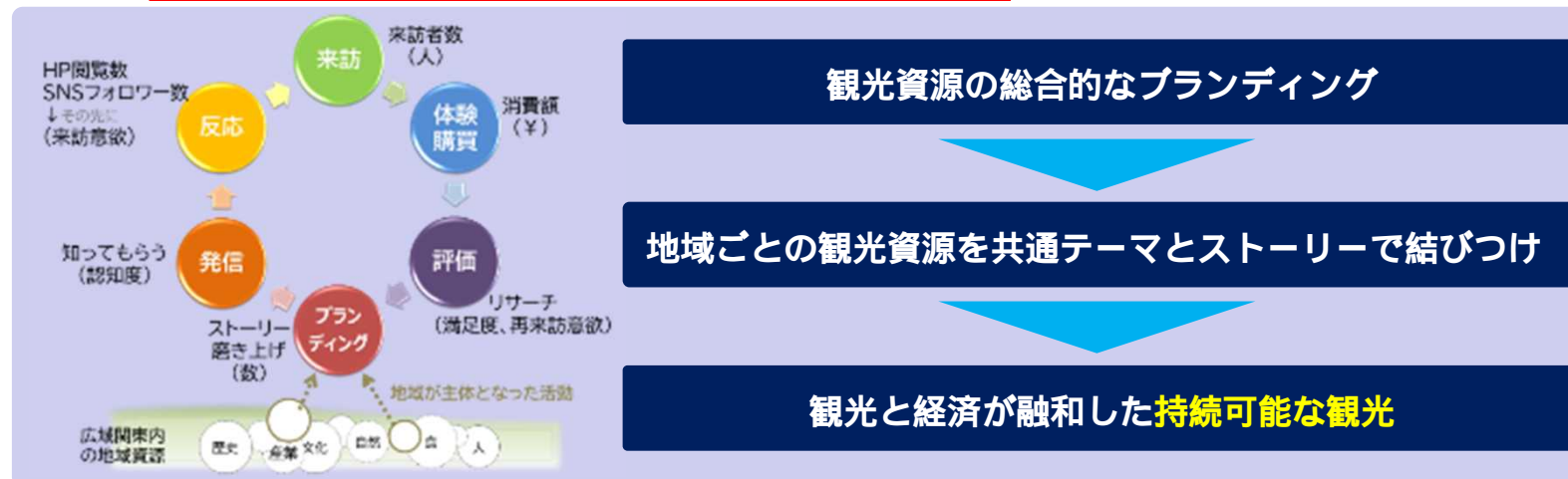
第 1 回江戸街道プロジェクトアドバイザー会議 これまでの取組について

令和 5 年 6 月 8 日（木） 15:00-17:00

1 「江戸街道プロジェクト」の概要～広域関東の新たな観光振興～

「江戸街道プロジェクト」のねらい～コンテンツの再編集と統一ブランディング～

『江戸街道プロジェクト』とは、日本橋を起点とする五街道とその枝道として整備された水戸街道や成田街道等の脇往還を「江戸街道」として位置づけ、**街道沿いに豊富に点在している歴史的な観光資源、食や文化などの魅力的なコンテンツを再編集**し、広域関東を「江戸街道」という**統一テーマによってブランディング**することで、効果的に国内外へ発信し誘客促進を図る取組です。



江戸街道プロジェクト
ロゴマーク

街道ブランドによって、これからは様々な歴史を結ぶことを象徴的に表現するため、世界を表す円環と5色の街道により構成されるデザイン。

8つの取組 ～江戸街道プロジェクト推進ビジョン2023に基づく具体的な取組～

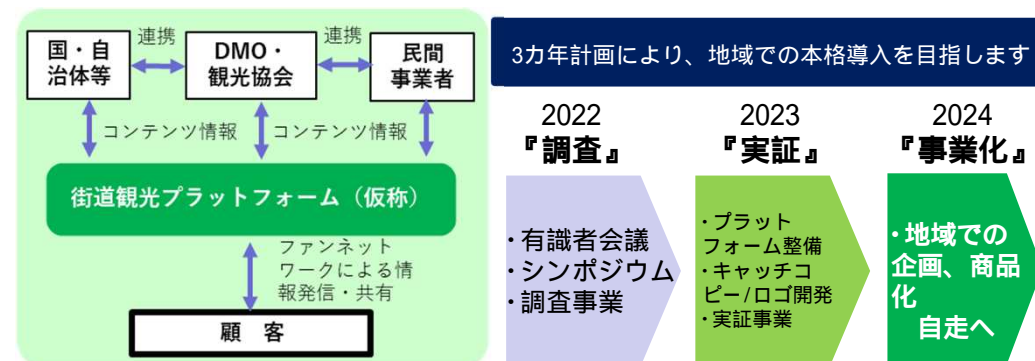
連携の契機となる街道ごとのストーリー設定
ロゴマークの活用と展開による気運の醸成
ニーズとターゲットに対応したプロモーションの推進
既存の街道関連団体との協働と連携組織の拡大

地域の取組や人材育成に対する支援
実証事業の実施によるモデル事例の構築
補助金等を活用したコンテンツ造成等の推進
フォーラム等の開催による認知度の向上

「江戸街道プロジェクト」の推進で目指すべき姿

地域の観光コンテンツや街道プロモーションツールを集約し、街道観光の情報発信を一元提供できるプラットフォームを構築。

関係者が容易に情報発信・共有できる体制の構築を目指します。



2 令和4年度の江戸街道プロジェクトの取組

江戸街道プロジェクトの令和4年度の取組として、下記の取組 ~ を行った。次頁より、各事業の実施概要について紹介する。

上半期（令和4年4月～令和4年9月）

有識者意見の収集（令和4年5月・11月、令和5年3月）

取組 第1回江戸街道プロジェクト有識者会議



周知・関心（令和4年7月）

取組 江戸街道プロジェクトシンポジウム



下半期（令和4年10月～令和5年3月）

第2回有識者会議

第3回有識者会議

地域支援・基礎調査（令和4年11月～令和5年3月）

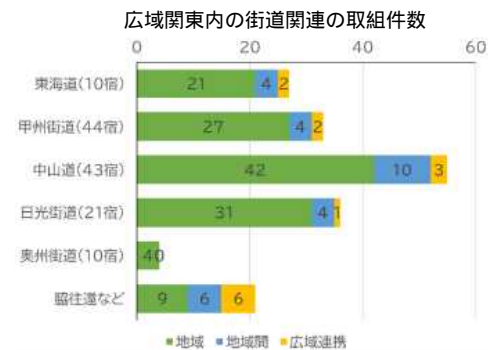
取組
江戸街道観光を促進するための
専門家マッチング事業



取組 街道観光 実践オンラインセミナー



取組
街道を活用した広域関東の新たな
観光振興策の調査事業



目的

「江戸街道プロジェクト」を展開するにあたり、有識者からなる検討委員会を立ち上げてコンセプトを明確化していく必要があったため、第1回会議にて、有識者からの意見を踏まえて当該プロジェクトの意義と目的を広く多くの方に理解してもらえるよう実施方針を作成し、第2回・第3回では、当年度に実施する各種取組や調査事業の計画・実施結果を踏まえ、課題の抽出や対応策等を検討。令和5年3月、「江戸街道プロジェクト推進ビジョン2023」及びロゴマークを策定した。

第1回『江戸街道プロジェクト』有識者会議

- <日時> 令和4年5月20日(金) 13:30~15:30
- <場所> 関東運輸局横浜第2合同庁舎16階 AB会議室
- <出席者> 有識者委員、関東運輸局
- <議題>
 - ・江戸街道プロジェクト有識者会議の設置について
 - ・江戸街道プロジェクトの実施について
 - ・その他

- <決議事項>
 - ・江戸街道プロジェクト実施方針案の承認
- <検討事項>
 - ・江戸街道の商標登録について



第2回『江戸街道プロジェクト』有識者会議

- <日時> 令和4年11月1日(火) 13:00~15:00
- <場所> オンライン開催 (Microsoft teams)
- <出席者> 有識者委員、関東運輸局
- <議題>
 - ・江戸街道プロジェクトにおける取組状況について
 - ・その他

- <決議事項>
 - ・なし
 以下、実施予定事業について委員から意見を頂いた。
 - ・調査事業
 - ・専門家マッチング事業

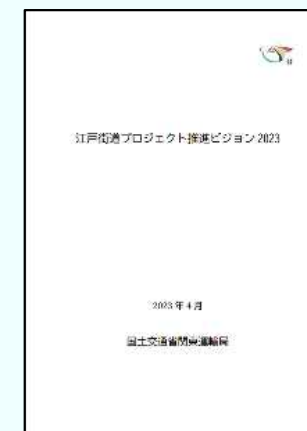
第3回『江戸街道プロジェクト』有識者会議

- <日時> 令和5年3月28日(火) 15:00~17:00
- <場所> (株)リクルート 32階 3201会議室
- <出席者> 有識者委員、関東運輸局
- <議題>
 - ・街道を活用した広域関東の新たな観光振興策の調査検討事業について
 - ・江戸街道プロジェクトにおける取組状況について
 - ・その他

- <決議事項>
 - ・江戸街道プロジェクト推進ビジョンの承認
 - ・江戸街道プロジェクトロゴマークの承認
 - ・江戸街道アドバイザー会議の承認



江戸街道プロジェクト
ロゴマーク



江戸街道プロジェクト
推進ビジョン2023

目的

江戸街道プロジェクトは、街道沿いに点在している魅力的なコンテンツを「江戸街道」という統一テーマによってブランディングし、効果的に国内及び海外へ発信することで誘客促進を図る取組である。街道観光に精通した有識者を招聘し、プロジェクトの意義と目的を広く多くの方に理解してもらうことを目的として、シンポジウムを開催し、取組事例の基調講演及び街道観光による観光振興をテーマとしたパネルディスカッションを実施した。

開催日時

日時：令和4年7月4日（月）14:00～17:00
場所：室町三井ホール&カンファレンス
開催形式：現地・オンラインのハイブリッド形式で開催

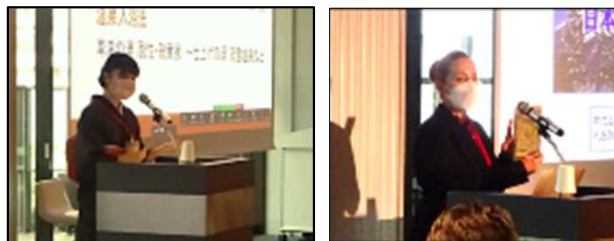
協力・後援

協力 一般社団法人中央区観光協会
後援 公益社団法人日本観光振興協会関東支部
日本政府観光局

プログラム等

1. 主催者挨拶 関東運輸局長 小瀬 達之
2. 基調講演
 - (1)「温泉が文化になった江戸時代～街道が果たした役割～」
跡見学園女子大学 兼任講師 山崎 まゆみ 氏
 - (2)「インバウンドから見た江戸街道」
実業家 ルース・マリー・ジャーマン 氏
3. 事例発表
 - (1)「箱根八里の取組」
箱根八里街道観光推進協議会 副代表幹事
NPO法人全国街道交流会議 専務理事 古賀 方子 氏
 - (2)新たな地域観光資源「御宿場印」
足立成和信用金庫 理事長 土屋 武司 氏
4. パネルディスカッション「街道観光による地域振興」
＜コーディネーター＞
石田 東生 氏 筑波大学名誉教授
＜パネリスト＞
丁野 朗 氏（公社）日本観光振興協会総合研究所 顧問
宮崎 俊哉 氏（株）三菱総合研究所 主席研究員
高橋 佑司 氏（株）リクルートじゃらんリサーチセンター
グループマネージャー
藤本 貴也 氏 箱根八里街道観光推進協議会 副会長
NPO法人全国街道交流会議 代表理事
土屋 武司 氏 足立成和信用金庫 理事長
岡村 清二 関東運輸局 観光部長
5. その他事業説明

登壇者



<基調講演 左：山崎氏、右：ジャーマン氏>



<事例発表 左：古賀氏、右：土屋氏>



<パネルディスカッション>

会場の様子



<当日会場の様子>

参加者

1. 参加者数
会場参加者数 : 67名
オンライン参加者 : 115名
2. 主な参加者の意見（アンケートより抜粋）
 - ・広域関東の活性化にあたっていろいろな側面から取り組もうという気概が感じられてよかった。
 - ・観光行政をこれから更に勉強していく必要がある身として、全ての講義がとても勉強になりました。

目的

これまでも、街道に関する様々な取り組みが地方公共団体やDMO、民間事業者等によって進められているが、様々な課題に対してそれぞれの地域が悩みながら街道観光を模索しているのが現状である。

運輸局が窓口となって専門家と地域をマッチングすることで、各地域が抱える様々な課題を解決することを目的に、観光を促進し、地域の活性化を支援していく「江戸街道観光を促進するための専門家マッチング事業」を実施した。

マッチング事例

- <申請者> 一般社団法人埼玉県物産観光協会
<実施方法> 対面による意見交換会（11月7日 実施）
<相談内容>

- 地域ブランド化を進めるにあたっての手法や地域関係者の合意形成の進め方等について

<専門家助言概要>

- 事業が継続するためには民間の力が必要。
- 地域のコンテンツの棚卸しとターゲットの選定は同時にやっていくべき。
- 街道を繋げていくのは、街道筋を構成する自治体の共通する強みを考えることもやっていくべきであり、大切なのはそれぞれの地域が元気になること。



- <申請者> 上里町
<実施方法> 現地視察及び意見交換会（2月3日 実施）
<相談内容>

- 有名な史跡等が無い中で、観光資源や食を江戸街道プロジェクトと絡めて観光地化・集客化を目指して国内外にPRする手法について

<専門家助言概要>

- これから観光を考えていく上では、上里町が目指す地域像を設定し、ターゲット及びその人たちに何を伝えたいのかを定めていく。
- 既に多くの旅行者が訪れている”このはなパーク”を情報発信拠点とするなど、うまく活用して町の周遊を促す。
- 「上里ブランド」のような地域の目玉となる食材・商品を定めていくことも考えられる。



- <申請者> 一般社団法人平塚市観光協会
<実施方法> 対面による講演（2月9日 実施）
<相談内容>

- 徳川家康にゆかりのある史跡や食を通して、平塚の「良いところ・良いもの」を幅広い世代に知ってもらえるための手法について

<専門家助言概要>

- 街道は時代によって様々な役割があり、今回観光という側面から捉えようとしている。
- 宿場間の街道については、現在ほとんど国道になっており「歩く」という視点での観光活用が難しい面がある。
- 何のために観光をやるのか、ということを考えることが非常に大事。
- 街道活用にあたっては「歩く」ことを主眼に据えて、様々な資源を集めてストーリーを作っていくことが重要。



- <申請者> 一般社団法人DMO川越
<実施方法> 現地視察及び意見交換会（2月27日 実施）
<相談内容>

- 東京に滞在する訪日外国人に対して、浮世絵に描かれているような風景があることをアピールして集客するための手法について

<専門家助言概要>

- 若年層へのPRは十分、今後狙うターゲットは30～40代富裕層。金沢と現在の川越の中間のような姿を目指していく。
- 外国人は歴史上の人物名よりも、ストーリーを知りたい。日本人も知らないような目線で、川越を「新しい場所」として案内する。
- 「昔の東京の原風景」という見せ方が外国人にとってわかりやすい。
- 受け入れ側の知識・感覚がアップデートされていたのが良かった。これからも大切にしていけるべき。



目的

新型コロナウイルス感染症からの再始動として、これから（または改めて）観光に取り組んでいく地域の人材育成の一助としても活用できる内容として、観光振興のスペシャリストを講師として招請。

地域資源の発掘から磨き上げ等、観光に関する基本的な内容（地域における組織づくりと運営、効果的な情報発信、必要な資金の確保・運用）を分かりやすく学べるセミナーを開催。

街道に関する事例を多く扱うことで、街道観光への関心が向く契機とできるような内容で実施した。

開催日	開催セミナー	講師
第1回 1/11(水)	地域資源の見つけ方	高橋 佑司 氏 総リクルート
第2回 1/27(金)	旅行商品の作り方	じゃらんリサーチセンター グループマネージャー
第3回 2/8(水)	組織づくりと運営（基礎編）	宮崎 俊哉 氏 株式会社総合研究所 スマート・リージョン本部
第4回 2/22(水)		
第5回 3/8(水)	効果的な情報発信とは	山崎 まゆみ 氏 跡見学園女子大学 兼任講師
第6回 3/17(金)	街道観光プロジェクトの財務戦略	桐明 幸弘 氏 株式会社インテグリティサポート 代表取締役社長

開催状況

申込者数

第1回	188名
第2回	207名
第3回	197名
第4回	189名
第5回	220名
第6回	209名
合計	1,210名



主な参加者

DMO・観光協会関係者

民間事業者

- ・公共交通事業者
- ・旅行会社
- ・観光施設事業者
- ・新聞社
- ・銀行

大学関係者

国・地方公共団体関係者

参加者の声（抜粋）

事後アンケートより：「役に立った」... 85.3%（全6回の平均）

「これから観光で売り出そうとしている自治体・団体」を対象としていることもあり、実績を交えたお話は、実践に取り入れられるようなヒントが多く、分かりやすかった。

今まさに、各地域(団体)で直面している課題の共有ができた。

団体ごとに課題は異なりますが自信に繋がりました。

具体的な事例を交えてご紹介くださるのでイメージが付きやすかったです。

記者や視聴者目線を見た時にこういった記事が目を引くのか、今後のイベント発表等に活かしていきたい。

DMOの設立と運営に携わってきたが、経営という視点・知識が不足していたことから役に立った。

目的

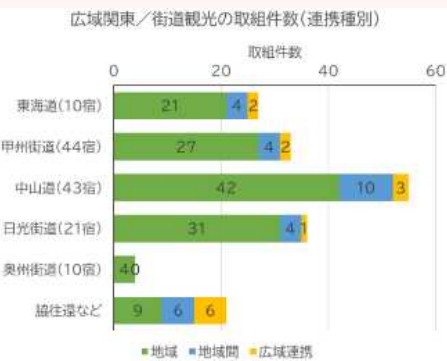
コロナ禍で疲弊した地域に元気を取り戻すための新しい取組として、五街道を活用した『江戸街道プロジェクト』を立ち上げ、令和4年度、街道をテーマとした取り組み事例の収集や市場のニーズ調査、既存の旅行商品に関する調査等を実施した。

街道をテーマとした既存取組事例の調査事業

『江戸街道プロジェクト』の推進にあたっての基礎資料として、広域関東内外で取り組まれている活動の実態を把握した。

基本収集：街道観光に係る取組事例をWEB調査等により収集した。

好事例に関する詳細調査：好事例として抽出した事例について、文献・資料調査やヒアリング調査により、ターゲット層やニーズの特性等に関する詳細調査を行った。



広域関東内の取組件数

(凡例：地域、地域間連携、広域連携)

詳細調査対象：

<広域関東内>

- ・御宿場印プロジェクト
- ・埼玉六宿
- ・こしがや「まち未来創造塾」
- ・妻籠宿保存事業
- ・城下町のまちなみを活用したコース造成(川越市)
- ・和田宿再開発プロジェクト

<広域関東エリア外>

- ・昇竜道プロジェクト
- ・シュガーロード
- ・古地図を片手にまちを歩こう
- ・まちなか西国街道 等

市場のニーズ調査事業

調査方法：WEBアンケート

回収数：1,000サンプル

対象条件：街道観光に関心がある人

主な設問：

- 街道観光の来訪経験
- 街道観光の意向
- 世代別の街道観光のイメージ
- 交通手段 等



街道観光イメージの世代間比較

街道をテーマとした既存旅行商品の調査事業

調査方法：ヒアリング 対象事業者：旅行関連会社4社

調査内容：街道をテーマとした旅行商品の顧客、造成及び地域連携に関する意向等について聞き取り。

主な結果

- ・商品展開は街道踏破がテーマで主な顧客はリタイア世代。
- ・地域情報の収集は自社で実施することが多い。
- ・企画段階から地域の情報を入手できる仕掛けが望まれる。

連携可能なコンテンツの整理

事例等から広域関東エリア内の連携を推進するために活用できる手法を整理した。

- ・コレクション性のある媒体
- ・地域情報の一元集約
- ・周遊した結果に特典
- ・地域情報の一元発信
- ・”地域ならではの”を集めたイベント

街道の成り立ちや歴史的な背景の整理

五街道ごとに成り立ちや歴史的な背景について既存文献に基づき整理した。

また、「江戸街道」全体を象徴するロゴマークを作成した。



ロゴマーク

街道を活用した広域関東の新たな観光振興策の検討

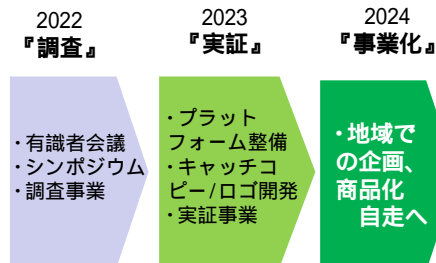
調査結果に基づき、以下の項目を立てて、街道を活用した広域関東の新たな観光振興策を検討し、推進ビジョン2023を策定した。

1. 広域関東観光の現状と課題
2. 広域関東観光のポテンシャル
3. 広域関東における観光推進の方向性
4. 広域関東の新たな観光振興策「江戸街道プロジェクト」
5. 「江戸街道プロジェクト」の基本方針
6. 「江戸街道プロジェクト」の推進で目指すべき姿

これからの進め方

『江戸街道プロジェクト推進ビジョン2023』で示した基本方針等に基づき江戸街道という統一テーマで広域関東観光のブランド価値を高め、維持し、地域が自立して持続可能な観光で稼げるようになることを目指す。

具体的には、地域の観光コンテンツや街道プロモーションツールを集約し、広域関東における街道観光の情報発信を一元提供できるプラットフォームを構築し、関係者が容易に情報発信・共有できる体制を構築する。



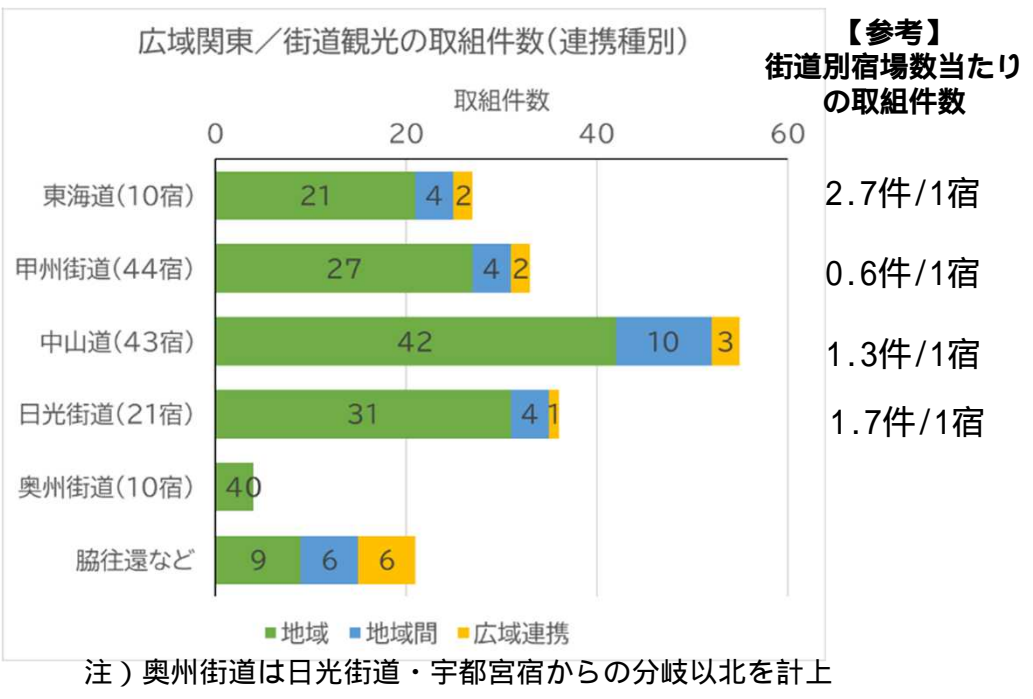
<参考> 広域関東における街道観光の取組 ~ 令和4年度調査事業より ~

概要

基本収集：街道観光に係る取組事例をWEB調査により収集した。
 好事例に関する詳細調査：抽出した好事例について、文献・資料調査やヒアリングにより、詳細調査を行った。

< 広域関東における街道を活用した取組件数(連携種別毎) >

五街道を中心に、脇往還も含めて広くWEB調査を行った結果、街道に係る取組事例として総計176件が収集された(広域関東内の五街道の宿場数は128宿、自治体数は75自治体)。



< その他調査事業の成果の紹介 >

その他、調査事業では下記の項目について整理している。

- ・ 広域関東外の実例の紹介
- ・ 旅行関連会社ヒアリング結果
- ・ 旧宿場と現行市町村の対照表
- ・ 街道観光のイメージ調査
- ・ 若年層(大学生)ヒアリング結果
- ・ 宿場の歴史や特徴の整理

< 連携種別毎の事例紹介 >

広域連携 ~ 複数の都道府県が連携した取組 ~ 「御宿場印プロジェクト」

実施主体：足立成和信用金庫
 エリア：日光街道、会津西街道、東海道

POINT

- ・ 「コロナ禍における地域経済活性化」の想いを抱く各地の信用金庫、観光・NPO団体と協力して実施。
- ・ 2023年3月には東海道の京都「三条大橋」までがつながり、今後は奥州街道でもプロジェクトの展開を目指す。

地域間 ~ 複数の自治体が連携した取組 ~ 「埼玉六宿」

実施主体：幸手市(事務局)
 エリア：[日光街道]草加市、越谷市、春日部市、杉戸町、幸手市、久喜市

POINT

- ・ 杉戸町が平成28年の開宿400年を契機に、日光街道の埼玉県内の5自治体(宿場町)に連携を呼びかけ、日光街道埼玉六宿連携会議を組織。
- ・ 日光街道埼玉六宿連携スタンプラリー、JAFと連携した六宿連携ドライブスタンプラリーを開催。

地域 ~ 自治体ごとの取組 ~ こしがや「まち未来創造塾」

実施主体：(株)まちづくり越谷、越谷市観光協会
 エリア：日光街道(越ヶ谷宿)

POINT

- ・ 越谷を集客交流(観光交流)都市とすることを目標に「地域を担う優れた人材を輩出すること」「地域ならではのビジネスを創出すること」を目的に活動。
- ・ 越谷市には宿場町の歴史を通して古くから伝わる「技」・「生業」が多く隠れており、そういった掘り出しをまちの人々が行う。

江戸街道プロジェクト推進ビジョン2023の基本方針(位置づけ)

「江戸街道プロジェクト推進ビジョン2023」は、江戸街道プロジェクトを2024年度までに広域関東()における効果的な施策とするために、当該エリアにおける観光関係団体等による「街道を活かした積極的な取組」を促す方針をとりまとめたものです

広域関東・・・福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県の1都10県

広域関東における観光推進の方向性

- 潜在する地域資源を磨き、ブランディングすることで情報発信力を高め、認知し、訪れてもらい、体験(消費)してもらう
- 域内全体が意識を共有できるブランディングを通じて、ブランド価値を高め、さらなる来訪を促す好循環を目指す

広域関東観光のポテンシャル

国内有数の観光地や温泉地、江戸文化が花咲いた歴史・文化のほか、まだ知られていない地域資源も含めたコンテンツが豊富
高度に整備された鉄道・バス・高速道路ネットワーク
国内を代表するゲートウェイである成田・羽田の国際空港があり、訪日外国人旅行者の誘客に有利

8つの取組

連携の契機となる街道ごとのストーリー設定
ロゴマークの活用と展開による気運の醸成
ニーズとターゲットに対応したプロモーションの推進
既存の街道関連団体との協働と連携組織の拡大

地域の取組や人材育成に対する支援
実証事業の実施によるモデル事例の構築
補助金等を活用したコンテンツ造成等の推進
フォーラム等の開催による認知度の向上



江戸街道プロジェクト ロゴマーク

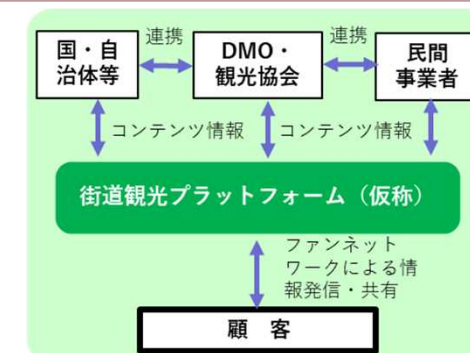
「江戸街道プロジェクト」の推進で目指すべき姿

広域関東が一体となった観光振興の取組に向けた支援

地域の観光コンテンツや街道プロモーションツールを集約し、広域関東における街道観光の情報発信を一元化するプラットフォームの構築と効果的活用

BtoC：一方向な情報発信にとどめず、双方向ファンネットワークの仕掛けづくり

BtoB：地域の関係者が繋がる場としての機能構築



プラットフォームの活用による推進体制イメージ



資料3-2

江戸街道プロジェクト推進ビジョン 2023

2023年4月

国土交通省関東運輸局

目 次

1. 広域関東観光の現状と課題	1
(1) 広域関東観光の概況	1
(2) アフターコロナの動向	1
2. 広域関東観光のポテンシャル	2
3. 広域関東における観光推進の方向性	2
4. 広域関東の新たな観光振興策「江戸街道プロジェクト」	3
(1) 目的	3
(2) ターゲット	3
(3) 取組の概要	3
(4) 期待されるメリット	4
5. 「江戸街道プロジェクト推進ビジョン 2023」の基本方針	4
(1) 位置づけ	4
(2) 取組	4
①連携の契機となる街道ごとのストーリー設定	4
②ロゴマークの活用と展開による気運の醸成	6
③ニーズとターゲットに対応したプロモーションの推進	6
④既存の街道関連団体との協働と連携組織の拡大	8
⑤地域の取組や人材育成に対する支援	8
⑥実証事業の実施によるモデル事例の構築	9
⑦補助金等を活用したコンテンツ造成等の推進	10
⑧フォーラム等の開催による認知度の向上	11
6. 「江戸街道プロジェクト」の推進で目指すべき姿	12

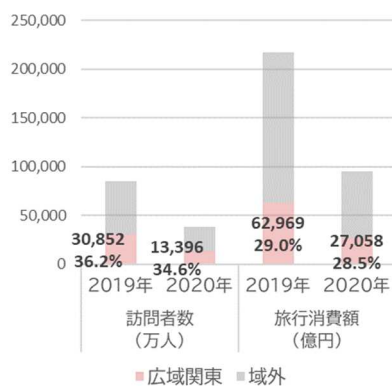
1. 広域関東観光の現状と課題

(1) 広域関東観光の概況

旅行・観光消費動向調査によると、コロナ禍前の2019年の広域関東※エリアでは、日本人国内旅行による訪問者数が延べ3億人超で全旅行者の36.2%を占めており、その観光消費額も約6.3兆円と全体の29.0%を占めていた。

ただし、その過半数は東京、神奈川、千葉の3都県に集中しており、エリア全体の観光振興の観点から、他地域への周遊促進が課題と言える。

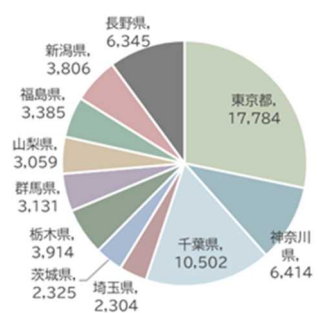
※広域関東：福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、新潟県、長野県の1都10県



全国に占める広域関東の訪問者数(万人)旅行消費額(億円)
旅行・観光消費動向調査 2019-2020

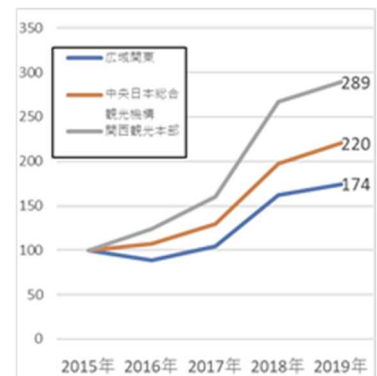


都県別訪問者数(万人)
旅行・観光消費動向調査 2019



都県別旅行消費額(億円)
旅行・観光消費動向調査 2019

また、訪日外国人消費動向調査によると、コロナ禍前5年間における広域関東エリアの訪日外国人旅行者の消費額の伸びは、関西エリアや中部エリアに比べ低くなっており、訪日外国人旅行者の消費の取り込みの面で課題があったと言える。



広域連携 DMO エリア別外国人消費指数の推移
(2015=100とした場合の相対値)
訪日外国人消費動向調査 2015-2019

(2) アフターコロナの動向

コロナ禍で国内旅行は大きく低迷したものの、国の全国旅行支援などにより、2022年の日本人国内延べ旅行者数は4億人超となり回復傾向にある。また、訪日外国人旅行者に関しても、昨年10月からの入国者数の上限撤廃、短期滞在者のビザ免除等によって回復傾向にあり、さらに本年3月から中国に対する新型コロナウイルスの水際対策が緩和されたことから、今後は最大の訪日旅行者数を占めていた中国からの来訪も復活してくるものと想定される。

2. 広域関東観光のポテンシャル

豊かな山海の自然に囲まれている広域関東エリアには、国内有数の観光地や温泉地、江戸文化が花咲いた歴史・文化のほか、まだ知られていない地域資源も含めコンテンツが豊富にある。また、エリア内には高度に整備された鉄道・バス・高速道路ネットワークがあり、東京を起点にすればほとんどの観光地に2～3時間程度でアクセスできる環境にあるため、周遊観光のポテンシャルは高い。

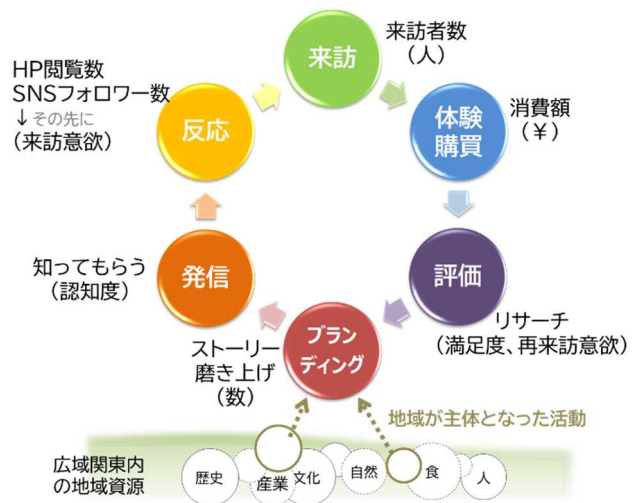
さらに、国内を代表するゲートウェイである成田・羽田の国際空港があり、訪日外国人旅行者の誘客にも有利である。

3. 広域関東における観光推進の方向性

域内に潜在する地域資源を磨き、ブランディング（イメージづけ）することで、情報発信力を高め、国内外の多くの方々に認知され、訪れてもらい、そして体験（消費）してもらう。

そしてその評価がさらにブランド価値を高め、さらなる来訪を促す、そういった循環を目指す。

そのためには、域内全体が意識を共有できるブランディングが重要であり、長期的な取組により広域関東に浸透させていく。



広域関東における観光推進の方向性

- 広域関東における観光資源の総合的なブランディングを図ることを目的として、地域ごとの観光資源を共通のテーマとストーリーで結びつけ、トータル的な発信力の強化につなげることが重要である。
- 文化遺産や自然環境へ配慮しつつ、観光と経済が融和した持続可能な観光を目指しながら、広域関東エリア全体、津々浦々への周遊拡大、観光消費額の増大といった循環を形成することが重要である。



4. 広域関東の新たな観光振興策「江戸街道プロジェクト」

広域関東観光のブランディングに向け、他との差別化やマーケティング優位性につながる統一的なイメージ戦略として、このエリア形成の礎となった江戸時代に焦点をあて“江戸街道”をブランディングのキーワードとする取組を推進する。

(1) 目的

江戸街道プロジェクトは、広域関東エリアの各地で取り組んでいる活動やそれに関わる方々が、江戸街道にまつわる歴史や文化、あるいは食などで連携することで、地域をより一層活発にし、魅力発信力を高め、そして来訪と観光消費の促進につなげる取組である。

旧宿場町等を起点に地域資源を散策する観光スタイルを広めていくことで、持続可能な地域経済への寄与と来訪者の健康増進につなげる。

また、街道を活用することで、都県・基礎自治体・登録DMO・候補DMO・観光事業者・交通事業者・地域事業者・金融機関等、関係者間での連携が容易となり、自治体の境界を越えた連携を図る。

(2) ターゲット

街道観光に関心のある幅広い方を対象とする。特に、歴史好き女子（刀剣、神社仏閣、御朱印、仏像、城等）、健康志向の高齢者、車や鉄道、自転車を利用するユーザー等の国内観光客をはじめ、日本の伝統文化や歴史に関心のある欧米豪市場を念頭に置きつつ、国内旅行者と訪日外国人旅行者を分けずに進めていく。

(3) 取組の概要

- 日本橋を起点とする五街道とその枝道として整備された脇往還を中心としたそれぞれの街道沿いに豊富に点在している歴史的な観光資源、食や文化などの魅力的なコンテンツを再編集し、広域関東を「江戸街道」という統一テーマでブランディングすることで、効果的に国内外へ発信し誘客促進を図る取組を支援する。
- 地域の特性を活かしながらDMO等が稼げる仕組みづくりを支援する。

(4) 期待されるメリット

- 広域での取組ができるため、各地域が持つ長所（観光地としての強み）を最大限に引き出しながら、互いの短所（観光名所だけでなく観光に必要なインフラ等）を補うことができる。
- 江戸街道は地理的に鉄道路線や主要道路等に沿っており、旅行者の動線に合わせ、関係者間での連携が取りやすい。
- インバウンドに向けては、都県の枠を超えた統一テーマでの発信により地域一帯を強く印象づけることができる。

5. 「江戸街道プロジェクト推進ビジョン 2023」の基本方針

(1) 位置づけ

本ビジョンは、江戸街道プロジェクトを 2024 年度までに広域関東における効果的な施策とするために、当該エリアにおける観光関係団体等による「街道を活かした積極的な取組」を促すための方針についてとりまとめたものである。

(2) 取組

① 連携の契機となる街道ごとのストーリー設定

知名度がまだ高くない地域資源ほど、あまり知られていないが故に、その魅力を磨くことは消費者の来訪意欲を促すために重要である。

そのため、地域資源を名称や写真に加え、他との違いや潜在価値等でストーリーとして可視化することで、その魅力の磨き上げを行う。

◆街道のストーリーを通じてまちの「あらたなにぎわい」を創出する

既存事例の紹介～まちなか西国街道推進協議会～

- ・広島駅周辺から平和記念公園の間は原爆で街そのものが一度破壊されていることもあり、一見して旧街道として認識するのは難しく、それゆえ広島の人々にすらくよく知られていない。しかし、広島を歴史を紡いできた西国街道には、今も当時の面影を色濃く残す景観やそこに暮らす人たちがいる。
- ・まちなか西国街道推進協議会は、広島市がすすめる「広島駅周辺地区」と「紙屋町・八丁堀地区」をつなぐ「楕円形のあらたな賑わいの軸」とした西国街道を復興させることで、広島市中心部の東西の核である両地区の賑わいを都市全体に広げることが目的として活動している。



広島市内の旧西国街道



道路整備における西国街道の可視化



まちなか西国街道のロゴマークを使ったマンホール



まちなか西国街道のロゴマークのステッカー

② ロゴマークの活用と展開による気運の醸成

国内外を問わず幅広く知ってもらえるように、また各地域で一緒に取り組む方々が江戸街道プロジェクトの目的、理念、想いをひとつにできるように、ロゴマークを掲げる。この旗印のもと、国内はもとより今後増加が期待される訪日外国人旅行者にも自信と真心をもって私たちが暮らす地域の歴史や文化、自然といった古くて新しい魅力を発信し、多くの来訪者から共感や信頼感を得られるようなブランド価値の醸成につなげる。

◆江戸街道プロジェクトのロゴマーク



■ロゴマークに込めた思い

街道ブランドによってこれからも様々な歴史を結ぶことを象徴的に表現するため、世界を表す円環と5色の街道により構成されるデザインとしました。

濃い色から広がる5色のラインは、地域それぞれの特色ある営みが詰まった歴史から未来に向け発展していく姿をイメージし、円環は広域関東の海、山等の豊富な自然を表します。

③ ニーズとターゲットに対応したプロモーションの推進

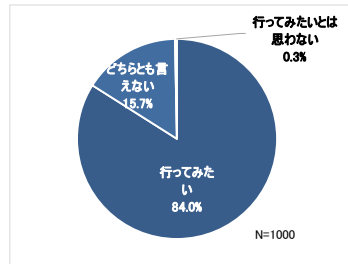
すでに宿場巡り・街道歩き等の街道観光に興味がある方は、自らそれらに関する情報を探し、得て、現地を訪ねるが、そうでない方々、特に若い方たちは街道という言葉も、その沿線地域に何があるかも知らない場合が多く、結果、情報を探そうという行動に至っていない。

したがって、そういった方々に如何にして情報を届けるかが課題である。そのためにはフックとなる魅力的なコンテンツとして、例えば、ご当地ごとの食・グルメ・江戸フードに着目して「街道観光」を磨き、それを伝えるWEBサイトを整備し、それと合わせて多くの方々をインターネット検索に向かわせるきっかけになるようなプロモーションが必要である。昨今、若い人を中心にSNSで情報を得ている人が多いことから、情報媒体の入り口としてSNSを活用したプロモーションを推進する。

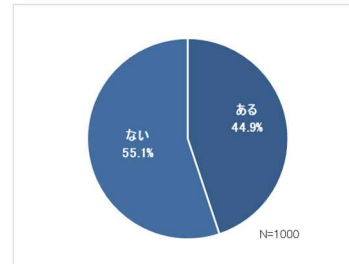
- ◆街道観光に関心がある人の多くは機会があれば実際に旅行してみたいと考えているが、実際に旅行したことがある人は半数を下回る。

関東運輸局調査事業～街道観光に関する WEB アンケート調査～

- ・街道観光に関心があると答えた人を対象にした調査でも、街道観光への訪問意向は 8 割超と高いものの、実施に街道観光に行った経験がある人は約半数で、掘り起こしが必要。



街道観光に関心がある回答者のうち今後、街道観光に行く意向の割合



街道観光に関心がある回答者のうち実際に訪問経験がある人の割合

- ・街道観光のイメージについて、年代の違いが比較的大きい項目は「古い町並みを活用したまち歩き」（若年層で少なく、年齢が高くなるほど多くなる）と「グルメ」（30 代以下で多く、年齢が高くなるほど少なくなる）であった。



年代が高いほど街道＝まち歩きのイメージを持つ人が多い

年代が若いほど街道＝グルメのイメージを持つ人が多い

- ◆若者へのアプローチには、食、体験、ゲーム感覚を

関東運輸局調査事業～街道観光に関するグループインタビュー調査～

- ・跡見学園女子大学の学生を対象としたグループインタビュー調査では、地域資源を活用しているカフェや工芸品店の紹介等あまり知られていない情報にも関心があることが挙げられた。
- ・地域への来訪や地域内の周遊を呼びかける際には、若者も参加できるイベントなどを通じたものが望ましく、その訴求には SNS の活用が挙げられた。

④ 既存の街道関連団体との協働と連携組織の拡大

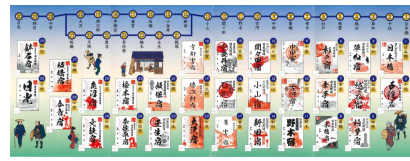
広域関東には、宿場町や街道を軸に街並み保全や地域振興に取り組んでいる団体がある。これらの既存活動団体と連携することで江戸街道プロジェクトの取組を効果的かつ加速的に進める。

また、本プロジェクトの目的の一つである地域の散策促進や健康増進といった観点から関連団体と連携を図ることも効果的である。

◆宿場町ごとに御宿場印を販売することで、「線」として街道観光を促進する仕掛けを打ち出す

既存事例の取組紹介～御宿場印プロジェクト～

- ・「コロナ禍における地域経済活性化」の想いを抱く各地の信用金庫、観光・NPO 団体が協力し、日光街道および日光西街道を来訪した証しとして「日光街道・日光西街道 御宿場印めぐり」をキャッチフレーズにして「御宿場印」を販売。
- ・活動から2年で1,000枚以上の御宿場印が販売され、周遊の契機となっていることが窺える。



足立成和信用金庫を中心に各地域の信用金庫ネットワーク等と連携して「線」としてつないだ日光街道の御宿場印一覧

⑤ 地域の取組や人材育成に対する支援

宿場町であった地域でも、現在そこに暮らす人々が宿場町であった歴史を知っているとは限らない。また、それを知っていたとしても、街道や宿場といったテーマで観光振興において何から取り組めばよいか分からないケースも多い。

そこで、本プロジェクトでは、様々な有識者と連携し、街道観光振興を検討する地域に向けて専門家の派遣を行い、地域資源化の取組の相談やこれを支える地域の人材教育の支援を行う。

◆地域への街道振興策の機運醸成

関東運輸局の取組紹介～専門家派遣事業～

- ・これまでも街道観光に関する様々な取り組みはあるものの、悩みながら模索している地域も少なくない。
- ・関東運輸局が窓口となり、地域の悩みに応じて専門家を現地に派遣し、地域内部で気づかれていなかった魅力や課題を専門家の立場から発見・発掘し、アドバイスすることで地域の観光関係者のスキル向上を支援した。



ルース・マリー・ジャーマン様を招いて川越で開催した専門家派遣事業

◆地域の取組を支える人材の育成の重要性

既存事例の紹介～株式会社まちづくり越谷～

- ・越谷市を集客交流（観光交流）都市とすることを目標とし「地域を担う優れた人材を輩出すること」「地域ならではのビジネスを創出すること」を目的に活動。
- ・越谷市では「越ヶ谷宿の雛めぐり」など宿場を活かしたイベントはあったものの、観光地の名所は多くはない。しかし、宿場町の歴史を通して古くから伝わる「技」・「生業」は多く隠れており、そういった掘り出しをまちの人々が行う。
- ・失敗の経験を恐れず、まちの人々が自分で考え生み出すことを重視、塾を通じて学んだ人材が「越谷技博」などイベントを通じて成果を発揮している。



㈱まちづくり越谷が中心となって活動するこしがや「まち未来創造塾」では、幅広い年代が参加



⑥ 実証事業の実施によるモデル事例の構築

関係者が連携し知恵を出し合って地域固有のストーリーで磨き上げた観光コンテンツも、評価をするのは消費者である。

造成した観光コンテンツを稼げる商品とするためには、消費者による評価検証、課題の洗い出しと改善を予め行う実証事業も一つの手段である。その結果をお互いで共有し、参考にしながら各々のストーリーづくりに活かすこともできる。

本プロジェクトでは、そういったモデル事例を共有できるプラットフォームを構築して、各地域の取り組みを支援する。

(※プラットフォームについては、後出の「6.」を参照)

◆旅行会社と地元をつなぐ実務的な情報共有環境を整えることが求められている。

関東運輸局調査事業～旅行関連会社ヒアリング～

- ・地域のイベントを商品に取り入れるためには、少なくとも開催の3カ月前に情報がないと組み込めない。早い段階から情報提供があるとよりよい企画ができるがそういった情報を吸い上げる体制がない。
- ・さらに、商品造成を企画する際に「パンフレットに使用する画像やその許諾の申請先」、「来訪者に付加価値を見せるポイント」など、造成側がお客様に喜んでもらえるポイントや活用できる宣材について相談できる実務的な窓口（集約先）が、広域関東内に設置されることが望まれる。

⑦ 補助金等を活用したコンテンツ造成等の推進

観光庁では、コロナ禍で大きな打撃を受けた日本の観光産業の本格的な復興に向け、「観光再始動事業」や「インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業」（ともに令和4年度第二次補正予算）を展開している。また、令和5年度当初予算では「新たな交流市場の創出事業」等の支援を進めている。

それぞれの地域での取組として、当面の地元負担を抑えつつ将来的に稼げる観光商品づくりにチャレンジすることも可能であり、江戸街道プロジェクトに位置付けて後押ししていく。

◆観光庁看板商品創出事業を活用したコース造成の取組（令和4年度実施）

既存事例の紹介～一般社団法人平塚市観光協会～

- ・平塚は東海道の宿場町であったことや徳川家康が駿府と江戸の往復で立ち寄った御殿や鷹狩り、お酢街道など多くの歴史遺産はあるが、全国的に知名度が低い。
- ・平塚市観光協会を中心に観光庁事業を活用して、家康が平塚で食べていた食の開発・販売を行い、地域イメージの再構築と地域への集客の取組を実施した。



観光庁看板商品創出事業を活用し市内の複数の飲食店が開発した「家康弁当」

⑧ フォーラム等の開催による認知度の向上

広域関東の総合的なブランディングを図るためには、本プロジェクトの存在意義を高め、内外に発信し、より多くの参加を募って活動を活発化することが求められる。

そのためには、地域全体のトータル的な情報発信とさらに多くの協力者を得ていくことが重要であるため、立ち上げ段階からプロジェクトの露出を高めつつ、セミナーやシンポジウム等を積極的に展開していく。

こうした露出機会の拡大により、新聞等のマスコミからの注目を集めることで、江戸街道プロジェクトが、広域関東が一体となった取組であることを広く発信することができる。

◆ 「江戸街道プロジェクト」の認知を広げるためのシンポジウムと街道をテーマとした観光振興の取組について

関東運輸局事業～シンポジウム・セミナーの開催～

- ・「江戸街道プロジェクト」を進めるにあたり、地域の認識や街道観光への意識はまだ低い状況にあるため、コロナ禍で疲弊した広域関東の観光振興施策に取り組むこととし、有識者からの意見を踏まえてプロジェクトの意義と目的を広く多くの方に理解してもらうシンポジウムを開催した。
- ・また、街道観光を積極的に取り上げた観光振興のイメージをつくるセミナーを6回開催し、情報発信の方法や財源確保策などの参加者からの疑問に対して、講師が助言をおこなった。



令和4年7月、日本橋で開催した江戸街道プロジェクトシンポジウム

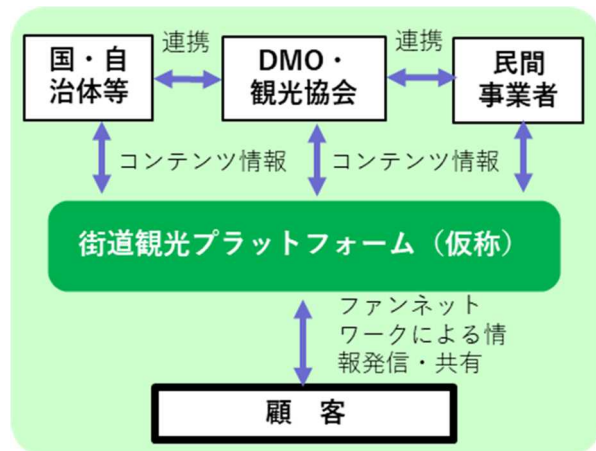


令和5年1月より全6回開催した街道観光実践オンラインセミナー
(第一回「観光資源のみつけ方」㈱リクルート 高橋氏)

6. 「江戸街道プロジェクト」の推進で目指すべき姿

本プロジェクトの出口戦略は、江戸街道という統一テーマで広域関東の観光におけるブランド価値を高め、維持し、地域が自立して持続可能な観光で稼げるようになっていくことである。

そのために、地域の観光コンテンツや街道プロモーションツールを集約し、広域関東における街道観光の情報発信を一元提供できるプラットフォームを構築し、関係者が容易に情報発信、共有できる体制をつくる。



プラットフォームの活用による推進体制イメージ

- BtoC：一方向な情報発信にとどめず、双方向ファンネットワークの仕掛けづくり
- BtoB：地域の関係者が繋がる場としての機能構築

第1回江戸街道プロジェクトアドバイザリー会議 今後の展開について

令和5年6月8日（木） 15:00-17:00



関東運輸局 観光部

国土交通省 Kanto District Transport Bureau

概要

令和5年度に取り組む事業として新規に「江戸街道アプリ（仮称）」を開発して、実際にモデル地域にて効果を検証する実証実験を行うほか、広域関東が一体となって情報発信を行うプラットフォームの設置を目指す。また、広域関東内外への江戸街道プロジェクトの認知向上および広域関東内の街道をテーマとした観光振興策の理解・参加を呼び掛ける取組として、前年度にも開催したシンポジウム及びオンラインセミナー、マッチング事業を今年度も行う予定である。

実証事業

江戸街道アプリ（仮称）の開発

街道沿いの観光コンテンツを、スマホ内で簡単に確認できる街道周遊観光アプリの実証事業。エンタメ機能や現地で使えるインセンティブ等の提供により、アプリを活用した周遊促進と消費拡大の効果を検証する。

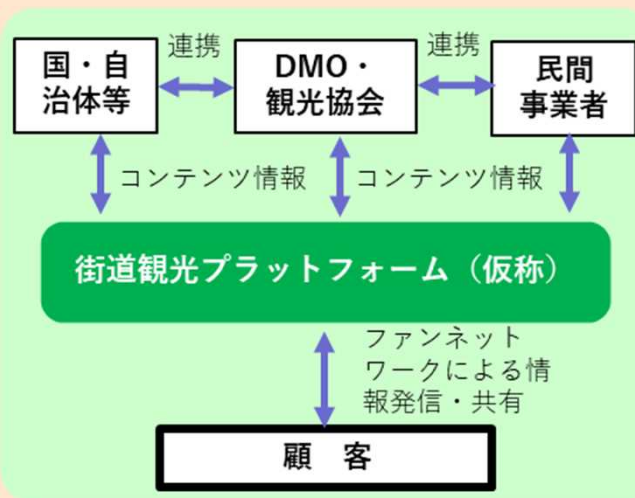


アプリ活用のイメージ（仮）

連携促進

プラットフォームの制作

地域関係者が繋がる場としての役割（B to B）、双方向のファンネットワークとしての役割（B to C）を持たせた、街道観光の取組・情報をワンストップで集約して発信できるプラットフォームを制作し、ブランドイメージと認知度の向上につなげる。



プラットフォームのイメージ（仮）

理解・参加

シンポジウムの開催

日時：令和5年7月7日（金）14:00～
会場：リクルートGINZA 8ビル（予定）

現地・オンライン（ハイブリッド方式）

内容： 基調講演
（予定） 食（江戸料理）に関する講演
宿（分散型宿泊）に関する講演
パネルディスカッション
江戸料理と宿場町の活用による街道観光振興に向けて

オンラインセミナーの開催

実施時期：令和5年8月（全4回開催）

講演時間：1回あたり約90分

内容：街道沿いの資源を活かした集客まち（予定）づくり など

専門家マッチング事業の実施

募集期間：令和5年6月～9月（予定）

対象者：地方公共団体・DMO・民間事業者等

相談内容：観光資源の磨き上げの手法やPR手法、地域関係者のまとめ方等、江戸街道の観光全般に関する事項

「江戸街道プロジェクト」のブランドイメージと認知度向上のため、ポスターを作成・配布予定。

- 作成案のポイント
 - ・特定の場所のみを想起させず、関東域内どここのエリアでも使いやすいもの（できれば架空の街道の写真か絵を使用）
 - ・「めぐる、あるく、つながる」のキャッチフレーズ
 - ・ロゴとQRコードを掲載
- ターゲット
 - ・関東域内（特に街道周辺）の自治体、DMO、観光関連団体等（B to B）とその顧客（B to C）
- 配布先
 - ・自治体、DMO、観光関連団体等

江戸街道プロジェクト ポスター案（イメージ）

非公開

概要

街道沿いの観光情報等を組み込んだ街歩き観光アプリを開発し、専用アプリ導入による街道観光促進（誘客と周遊促進による地域経済の活性化）の効果及び有効性について検証する。また、実証によって得られた結果をもとに、広域関東エリア内の他地域へ横展開するための方策を検討する。

実証事業の実施（仮称：江戸街道アプリ）

事業概要

(1) アプリの企画・開発

右記参照

(2) 実証実験（現地調査&受入環境整備）

【実施場所】小田原市

現地説明・調整

外国人モニターによるテスト

現地訪問者への訴求イベント・アンケート

アプリログや移動データの検証

(3) アプリの普及促進に向けた検討

媒体での訴求

次年度以降の展開方針の検討

アプリへ実装予定の機能

以下、4つの機能を持たせる予定である。

万歩計機能

観光情報配信機能

- ・地図上のピン表示をタップして観光案内を表示する機能と地点近隣で観光案内が自動表示される機能

リアル周遊拡大のためのプログラム

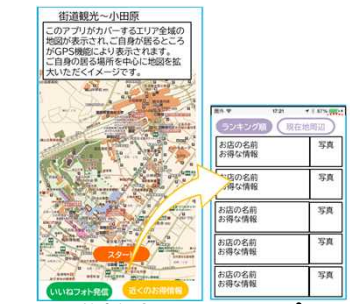
- ・ポップアップ機能によりお得情報を配信
- ・画面のアイコン『近くのお得情報』をタップすると、エリア内で登録された全てのお得情報閲覧が可能

旅行者参加型投稿機能

- ・旅行者がスマートフォンで撮影した画像とコメントをアプリにて投稿
- ・管理者（＝事業事務局）による審査の上で事業で整備する専用サイトに掲載



万歩計と観光情報配信機能



リアル周遊拡大のためのプログラム（周辺のお得情報の閲覧）



旅行者参加型投稿機能（写真とコメントの投稿、掲載サイト）